



姉崎のあゆみ

—日本史の中の姉崎—

「姉崎のあゆみ」連載に際して

「姉崎を知る会」 石黒修一

突然ですが「姉崎の歴史・文化」というと何を思い浮かべますか？

「姉崎」の名を冠した姉崎神社・姉崎古墳群、椎津城・鶴牧藩などの史跡、あるいは姉崎のくらしが一変した海の埋立て・漁業権放棄でしょうか。

姉崎の歴史なんて思いつかないという方もおられるでしょう。

また、盆踊りで踊った「姉崎音頭」の歌詞「椎津の山は昔武田の城の跡」ってなに？

「こうし五郎、ぎぼくの市兵衛」ってだれ？ 等々

疑問をお持ちの方もおられるでしょう。

姉崎には、縄文・弥生時代の遺跡、姉崎古墳群、平安時代からの姉崎神社、

多くの頼朝伝説、市原の戦国時代を代表する椎津城、徳川家康の孫が治めた姉崎藩、

市内で唯一廃藩置県を迎えた鶴牧藩、戦後の高度成長期の臨海工業地帯建設・漁業

権放棄、そして現在の少子高齢化・・・日本史の全ての時代の歴史・文化があります。

まさに「姉崎の歴史は日本史の縮図」です。

次回から「姉崎のあゆみー日本史の中の姉崎ー」と題して日本史の時代区分に姉崎の

出来事を埋め込み、8回シリーズで紹介いたします。

この連載を通して冒頭の疑問に答えていきたいと思えます。

難しいことは抜きの初心者向けの入門編です。

この連載が、地元の方々が改めて姉崎を見直し、新たに姉崎の住民となられた方々には

姉崎を知って頂く場となることを望んでいます。

多くの皆様が姉崎の歴史・文化を知り、それらを大切に思い、姉崎が好きにな

なることの一助になれば幸いです。

ご一緒に「姉崎の歴史・文化」を訪ねましょう！

「姉崎のあゆみー日本史の中の姉崎ー」
そのⅡ 古墳時代ー姉崎古墳群ー

姉崎を知る会 石黒修一

前回は『稲作によりムラが形成され、ムラを統率する支配者階級・邪馬台国の卑弥呼らが出現し、支配者階級の連合であるヤマト政権が成立し、古墳時代が幕を開けます。』までをお話しました。

ヤマト政権は奈良・三輪山地域を拠点としており、この地は仏教が振興した飛鳥時代の中心地であり、その後、北部の平城京へ遷都し奈良時代を迎え、平安京へ遷都するまでは奈良は政治の中心地でした。ヤマト政権は独自の墓制（墓の形、埋葬施設などの画一性）を持ち、勢力を拡大した地域にこの墓制による墓が作られたため、この時代を「古墳時代」と呼んでいます。

三輪山地域の纏向（まきむく）古墳群は最古の古墳群と言われており、その中の「箸墓（はしはか）古墳」は「卑弥呼の墓」との説もあります。この



消滅前の山王山古墳（昭和36年）

手前の建物は旧姉崎中学校・現在は公民館が建つ

出生した
竜頭太刀



二子塚古墳と
出土した石枕

「箸墓古墳」と形がそっくりの古墳が市原にあります。惣社にある「神門（こうど）5号墳」です。

このことは、市原にヤマト政権に従属する豪族がいたことを示しています。また稲荷台1号墳からは「王賜」銘鉄剣が出土しています。「王」はヤマト政権の首長であり、鉄剣を賜うほどの勢力を持っていた豪族であることが分かります。

今富から姉崎神社周辺に多くの古墳があり「姉崎古墳群」と呼ばれています。市原市内には1000基を超える古墳があると言われていますが、「姉崎古墳群」は市内の大型古墳の半数を包含し、南関東最大級の規模で、「ちば遺跡100選」にも選ばれています。

姉崎神社周辺は大型前方後円墳が密集している地区であり、天神山（てんじんやま）古墳、釈迦山（しゃかやま）古墳、鶴窪（つるくぼ）古墳、二子塚（ふたごつか）古墳、堰頭（せきがしら）古墳、六孫王原（ろくそんのうばら）古墳（これは前方後円墳）以上現存、山王山（さんのうやま）古墳、原1号・2号古墳以上消滅があり、このほか数多くの円墳・方墳もありました。これらは姉崎地区を拠点としていた「ウナカミ豪族」の墓であり、大型古墳は首長の墓であり、円墳・方墳はその陪葬の墓と考えられています。

発掘調査された二子塚古墳からは「石枕（国重文）・銀製耳飾り・馬具」が、山王山古墳からは「竜頭太刀・武具（市指定）」が発掘されており「ウナカミ豪族」はかなりの勢力を持っていたと思われる。4世紀から7世紀まで300年にわたる一族の古墳が残ることは貴重なものであり、未発掘の大型古墳からも多くの発見があることでしょう。

各古墳の詳細は紙面の関係上省略しますが、姉崎

公民館ロビーに『姉崎古墳群散歩マップ』を用意しますので、お持ちください。これを片手に「古墳巡り」をしてはいかがでしょうか。

ともかく姉崎は、縄文・弥生の古代人にとって住みやすい所であり、ヤマト政権時代でも栄えていた地域だったのです。

奈良時代に東海道の経路変更がありました。

それまでは三浦半島（走水）から海をわたり房総半島（富津）へ上陸して内房を北上して常陸国に向かう経路でした。

「上総」「下総」は都に近い順に「上・下」を名付けました。

この経路が奈良時代の後期に、三浦半島から海路を行くのではなく、陸路「武蔵」「下総」を通り常陸の国へ向かう経路に変更されました。このため変更後は都からは近いのに「下総」遠いのに「上総」と逆になってしまったのです。



『日本武尊（やまとたけるのみこと）』が暴風雨に遭い、「オトタチバナ姫」が身を犠牲にしたことで無事海を渡ることができた」との伝承があります。走水から富津へ渡る海路が舞台のできごとです。この伝承にまつわる神社が各所にあり、姉崎神社・島穴神社もその一つです。

次回は「平安時代ー姉崎神社ー」です、

「姉崎のあゆみー日本史の中の姉崎ー」
その3 平安・鎌倉時代

ー 姉崎神社と頼朝伝説ー
姉崎を知る会 石黒修一

奈良・平城京から京都・平安京に遷都し約400年にわたり平安時代が続きます。藤原氏が権勢をふるい貴族文化が繁栄しました。貴族・寺社の私有地(荘園)を守る武士団が発生し、力を持つようになります。源頼朝が蜂起し石橋山の合戦で敗れ房総に逃れますが、内房を北上するなかで兵を集め、鎌倉を拠点とて再び平氏に挑みます。そしてついに壇ノ浦で平氏を滅ぼし鎌倉時代となります。

平安時代の中期に役人・神官が守るべき法令集「延喜式(えんぎしき)」が作られました。今から約1100年前のことです。延喜式の中に当時の官が管理する全国の神社2561社が載る「神名帳(じんみょうちょう)」があります。



姉崎神社 神飾り

景行天皇40年(110年)日本武尊がオトタチバナ姫を忍び、「志那斗辯命(しなとへんめい)を祀ったことにより。また、姉崎神社はこの「神名帳」に載る由緒ある神社なのです。「神名帳」に記載された神社を「式内社(しき

ないしや)」といいます。「式内社 姉崎神社」と呼ばれているのはこのことなのです。

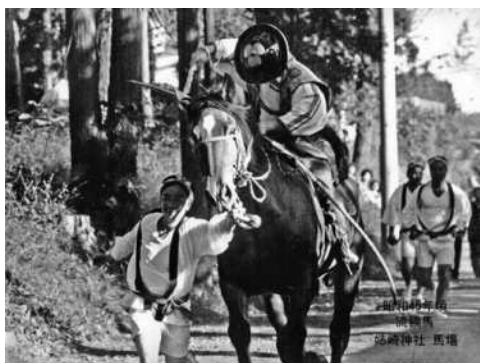
姉崎神社には朱雀天皇が将門降伏の祈願に太刀を奉納、源頼朝が戦勝祈願の馬揃えをしたなど多くのことが伝わっています。

また「松を嫌う」ことでも有名です。旅に出た夫神がなかなか戻らず、女神が「待つのは辛い、いやじゃ」と嘆いたのを村の者が「女神様は松が嫌いなのだ」と聞きちがえ、それ以降、境内には一本の松もなくなり、正月には「門松」をたてず松を神に替えた「門神」をたて、松の絵など「松」と名がつくものは一切使わなくなったといえます。「待つ」は「松」と音が同じの為の出来事です。各戸で「門神」をたてる風習は見られなくなりましたが、姉崎神社では今でも「神飾り」を飾っています。

姉崎神社では頼朝が戦勝祈願の馬揃えをしたのが起源と言われる「流鏑馬」が昭和の終わりころまで行われていました。地元では「ま」と「まとう」と呼び、現在の神門から東に向かう道で行われており、小字名「馬場」はその名残です



明治のまとう (姉崎町年中行事より)



昭和のまとう

頼朝が再起した房総半島には多くの頼朝伝説があります。

姉崎地区にも頼朝が逗留して旗竿を新たに切り替えたので「切替」の名前を賜った立野の切替家、駆け付けた兵を観閲した深城の「御所覽塚」、椎津八坂神社に木製の獅子頭を奉納した等々があり、各地にある「白幡神社」(白旗は源氏の旗印)も頼朝にちなむ社です。

次回は その4 戦国時代ー 椎津城ー です

◇姉崎音頭ミニ解説①

♪ハアー 松の嫌いなよ

明神様のネ ヨイトネ

夫婦杉の木 夫婦杉の木 縁結び

サアサ 良いとこ姉ヶ崎 ♪

明神様・姉崎神社のこと

松の嫌いな…本文参照

夫婦杉の木…現在の大鳥居の付近に枝の

つながった(連枝) 2本の杉の木

(夫婦杉)があり、連枝に相手を

想いながら「こより」を結ぶと願

いが叶うといわれた。

残念ながら杉はかれてしまった。

「姉崎のあゆみー日本史の中の姉崎ー」
その4 戦国時代ー椎津城ー

姉崎を知る会 石黒修一

姉崎神社で戦勝祈願・馬揃えを行った源頼朝が壇ノ浦で平家を滅ぼし鎌倉時代を迎え、その後足利尊氏が入京し室町時代となります。足利政権は政治基盤が弱く、下剋上・戦国時代を迎えます。国内は乱れ、市原市でも多く戦いが繰り返されました。中でも椎津城は「市原の戦国時代の歴史は椎津城の歴史」と言われるほど多くの戦い・ドラマが生まれました。

椎津城は室町時代の初め、甲斐武田氏から分かれ上総武田氏を起した武将・武田信長が築城しました（諸説あり）。城と言っても当時の城は、天守閣などはなく高台に土塁（どるい）をめぐらし、小



部分・江戸時代（部分）の地図

屋・物見台をおく「要害（ようがい）」と言われる造りです。椎津城は大きな戦いが8回もあり

ました。城下には房総往還、久留里往還（鎌倉街道ともいう）が通り、眼前に港を抱え、陸路・海路の重要拠点であったためです。多くの戦いの中でも天文21年（1552年）の戦いは熾烈でした。北条方の椎津城主武田信政を里見義堯が攻めた戦いです。信政軍は頑強に防いだが遂に支えきれず、信政は自刃し、城は炎上。双方で千四百人もの死者が出ました。

県指定文化財「椎津のからだみ」で供養する椎津小太郎はこの信政がモデルとされています。「からだみ」は『前城主を忍んだ空の葬儀』城主を逃がすための偽装の葬式』などの話が伝っており、椎津城に係わる行事なのです。

この大戦の後も北条と里見との椎津城争奪の戦いは続き、城主は何回も変わりました。

豊臣秀吉の小田原攻めの際、北条方であった椎津城も秀吉勢に攻められ落城し、椎津城は歴史から消え去りました。

歴史からは消えた椎津城ですが、江戸時代に出生された曲亭馬琴「南総里見八犬伝」の冒頭で『伏姫の母は椎津城城主の娘…』として登場しています。

椎津城跡は平成29年県指定史跡に指定されました。

現在、「史跡椎津城を守る会」が椎津城跡の整備作業を行っており「富士山の見える城跡」を目指しています。また、姉崎高校



椎津城跡の場所は椎津・八坂神社の裏手になります。

「ふるさとを愛する会」が多くの案内標識（写真）を作成し、整備作業にも参加しています。雑木・竹林が整備され、遊歩道ができた椎津城跡を歴史散歩させてはいかがでしょうか。

次回は その5 江戸時代 前編ー姉ヶ崎藩・義僕市兵衛ーです。

♪ハアー 桜 花咲くよ
◇姉崎音頭ミニ解説②

昔武田の 昔武田の 城の跡
サアサ 良いとこ 姉ヶ崎♪
椎津の山はネ ヨイトネ

椎津の山…椎津城跡 城山と呼ばれ、桜の名所で茶屋があった。
鶴牧藩成立は、椎津城落城の240年後の話で鶴牧藩主水野氏は椎津城の城主ではありません。

「姉崎のあゆみ―日本史の中の姉崎―」

その5 江戸時代・前編

― 姉崎藩・義僕市兵衛 ―

姉崎を知る会 石黒修一

豊臣秀吉は北条・小田原城を落とし全国制覇を果たしました。「太閤検地・刀狩り」を行うなど全国統治を進め、聚楽第に代表される豪華絢爛な桃山文化をもたらしました。しかし秀吉の死後、関ヶ原の戦いで豊臣方が破れ、徳川家康が征夷大将軍となり江戸幕府を開きました。

江戸時代の初め、わずか十三年間でしたが「姉崎藩」がありました。家康の第二子結城秀康の子忠昌（ただまさ）つまり家康の孫が一万石で陣屋を構えたのが「姉崎藩」の始まりです。忠昌は常陸下妻藩に転



封して姉崎藩は一時廃藩となりました。大名は、四年後、弟の直政（なおまさ）が二万石で姉崎藩主となり復活。直正も越前大野藩に転封して姉崎藩は

廃藩となりました。その後兄弟は何度か転封し、最終的には忠昌は福井藩五十万石に入封、直政は出雲松江藩十八万六千石に入封、ともに姉崎藩を出発点として最後には大大名となっています。余談ながら、海保の森嚴寺は忠昌が父結城秀康の菩提を弔うため中興開基したお寺です。

時代が少し下った元禄時代、五代將軍綱吉が「生類憐みの令」を發布するなか、姉崎で幕府の許可を得ての害獣狩りの最中、深城の山中で鹿と間違えて「お竹」という婦人を撃ち殺すという事件が起きました。犬一匹殺してもお咎めがあるこの時期、姉崎をはじめ近郊七ヶ村の名主は相談のうえ、この件を内密に収めることにしました。ところが、これが幕府の耳に入り七名の名主は伊豆の大島へ島流し、土地家屋は没収となってしまいました。「お竹騒動」と言われる事件です。姉崎村の名主・次郎兵衛の下僕・市兵衛は日頃の恩を返すのはこの時と、島流しになった主人の家族を、娘を奉公に出した金で買った小



市兵衛（姉崎町年中行事より 部分）

屋に住まわせ、懸命に働いて養う一方、自ら江戸へ通い幕府に「自分を身代わりにして主人の釈放を」と訴え続けました。時には主人の子・万五郎を背負い哀願すること十一年。はじめ門前払いしていた幕府も市兵衛の忠義に打たれ次郎兵衛らを釈放することになりました。

一介の下僕が江戸幕府を動かしたのです。このことは江戸中の評判となり、講談や歌舞伎の演題となり、儒学者・荻生徂徠は同じ元禄時代の大事件「赤穂浪士討ち入り」を引き合いに「武士は主人のために尽くすのは当たり前、市兵衛の忠義は赤穂浪士以上だ」と讃えています。芭蕉の門人宝井其角は「起きて聞け このほととぎす市兵衛記」との句を詠みました。明治以降も忠義の人として修身の教本になり、大正時代には映画化され、昭和十六年村上元三は「上総風土記」と題して市兵衛の奮闘を書き、直木賞を受賞しました。

市兵衛の墓は其角の句碑とともに妙経寺にあります。



其角の句碑（妙経寺）

次回はその6 江戸時代 後編

― 孝子五郎・鶴牧藩 ―

「姉崎のあゆみ―日本史の中の姉崎―」
 その6 江戸時代・後編
 孝子五郎・鶴牧藩
 姉崎を知る会 石黒修一

前回の「義僕市兵衛の奮闘」があった元禄時代には上方で文化の花が開き「元禄文化」と呼ばれています。この元禄文化からおよそ百年後こんどは江戸で庶民文化が開きました。十九世紀の初め、文化・文政の年号をとり「化政文化」と呼ばれています。化政文化は、派手な元禄文化と異なり、歌舞伎が庶民のものとなり滑稽本・浮世絵が多く発行され、「椎津城主の娘が伏姫の母」と書かれた曲亭馬琴の「南総里見八犬伝」もこのなかで生まれました。また、神社・仏閣の石造物には、化政時代に庶民から奉納されたものが多く残されています。

化政時代以降はロシアなどからの開国要求で幕府が動揺した時期です。

そして天皇を担いだ薩摩・長州を中心とした倒幕勢力に抗しきれず、徳川慶喜は「大政奉還」を行い江戸時代は終わります。



孝子五郎 古今記録より



昭和初期の八反甫と佐久間象山

米使ペリーの黒船が浦賀に来た頃、姉崎では佐久間象山が八反甫で大砲の試射を行っていました。大勢の見物人が詰めかけましたが、口径十センチほどの大砲は三発撃つただけで壊れ失敗に終わりました。

「黒玉を打ちにわざわざ姉ヶ崎海と陸とに馬鹿が沢山」との狂歌が残っています。

この化政時代に姉崎に大変な母親思いの息子・五郎がいました。五郎は家が貧しかったので懸命に働き、自分は食わずとも母にはひもじい思いをさせず、芝居好きな母が老いて足を悪くしたため、近所に芝居があるとひとり見に行き、母の前でその所作をまね母を喜ばせたりしました。また、母は雷がきらいであったため、どこにいても雷が鳴ると母のもとに駆けつけて母をいたわりました。母が死んでも雷が鳴ると母の墓に駆けつけ、着ていた簪を墓石にかけて守ったほどでした。この話が鶴牧藩藩主の耳に入り褒美を頂きました。

五郎の墓は妙経寺にあり墓石の脇には「ごろごろと 鳴る雷に 五郎来て 親の墓所を 守る孝行」の碑があり、妙経寺山門脇には五郎の頌徳碑が建っています。

この騒ぎの少し前、安房北条より水野氏が転封して「鶴牧藩」を開き陣屋を現在の姉崎小学校の地に置きました。水野氏は家康の生母・伝通院（お大の方）の生家という名門です。



鶴牧藩校・修来館

鶴牧藩は松平忠韶（ただてる）、忠実（ただみつ）忠順（ただより）と三代統

き、藩校「修来館」を開校して学問の振興に力を注ぎ、小藩ながら三十年の歳月と莫大な費用を投じ司馬遷の「史記」の解説書「鶴牧版史記評林」を編纂し、明治天皇の御前開講を行う榮譽を得ました。

次回は姉崎のあゆみ―日本史の中の姉崎―その7 明治・大正・昭和

―激動の変遷―です。

◇姉崎音頭ミニ解説③
 ♪ハア― 孝子五郎とヨ

義僕の市兵衛ネ ヨイトネ
 末が世までも 末が世までも 名を遺す
 サアサ 良いとこ 姉ヶ崎♪

【解説】

孝子五郎…本文参照
 義僕市兵衛…元禄時代・自らを犠牲にして主人に忠義を尽くした人
 前回掲載参照

「姉崎のあゆみー日本史の中の姉崎ー」

その7 明治・大正・昭和

ー 激動の変遷

姉崎を知る会 石黒修一

徳川慶喜の「大政奉還」で江戸幕府は終焉しましたが、徳川家の処遇に不満を持つ旧幕臣は新政府に反抗しました。「戊辰戦争(ぼしんせんそう)」です。上野・彰義隊、会津・白虎隊、函館・五稜郭の戦いはこの一連です。「戊辰戦争」を鎮圧した明治政府は西洋に追いつくと「富国強兵」政策をとりました。軍国主義が台頭して、「日中戦争」「太平洋戦争」を開戦。そして敗戦。敗戦後は民主主義国家として再生し、戦後の復興、高度成長の繁栄を迎えました。

「戊辰戦争」では姉崎も戦場となりました。五井の戦いに敗れた義軍(幕府軍)は姉崎に集結しましたが、官軍(政府軍)



義軍の墓

瑞安寺(下)と

妙経寺(右)



の追撃に耐えきれず小規模の戦いだけで木更津方面に敗走しました。この時鶴牧藩は激論の末官軍に恭順することになりました。これに不満とした藩士数名が脱走して官軍に討ち入り、その後生首なって官軍から送られ

てきました。これを弔った墓が椎津・瑞安寺にあり、戦死した義軍兵の娘が父らを弔った墓が妙経寺にあります。

明治政府はそれまでの幕藩体制の「藩」を廃止して「県」を置きました。これが「廃藩置県」です。鶴牧藩は市原市で「江戸時代から続く藩で廃藩置県を迎えた唯一の藩」で「鶴牧県」となりました。その後、木更津県、鶴牧村、姉崎町と変遷し昭和38年市原市になりました。

明治政府は明治5年には学校制度を定めた「学制」を發布しました。姉崎小学校の旧校歌(姉崎国民学校校歌)に♪明治六年開校の♪とあるのはこの「学制」により妙経寺庫裡を仮校舎として開校したことを歌ったものです。片又木小学校(法蓮寺)、深城小学校(深城青年会館)も同時に開校し、両校は明治22年合併し有秋小学校(現有秋東小学校)となりました。

明治45年3月には蘇我・姉ヶ崎間に木更津線(現内房線)が開通し、8月には木更津まで延伸しています。突然ですが多田等観(ただとうかん)をご存じでしょうか。チベット仏教学の先駆者で、日本学士院賞、勲三等旭日中



綬章を受賞しました。大正の始め、単独でヒマラヤを越えチベットに入りダライ・ダマ十三世の庇護のもと十年間チベット仏

教を学び、多くの經典などを日本にもたらしました。等観は昭和7年頃姉崎台に移り住み、昭和42年に亡くなりました。「無欲で純真な人」といわれ、姉崎には多くの書が残されており、子供のころ遊んでもらったという方も大勢います。等観の生地・秋田県土崎や、持ち帰った經典等を保管している博物館がある岩手県花巻では多田等観を顕彰していますが、市原市や地元姉崎では全く知られていないのは残念なことです。

戦後の姉崎は激変しました。かつての姉崎は半農半漁のくらしで、魚介類やノリ養殖が現金収入の柱でしたが、高度成長期・昭和30年代半から京葉工業地帯建設のため海が埋め立てられ沿岸地区の漁業協同組合は漁業権を放棄



して漁民は補償金をもらい陸に上がりました。あつという間に埋め立て地には巨大コンビナートが建設され、また有秋台、桜台などの山野が切り開かれ従業員が団地が建てられました。半農半漁の町並みは、近代的な工業地帯へと変貌したのでした。

帯へと変貌したのでした。

今回は姉崎のあゆみー日本史の中の姉崎ー

最終回 ふるさと姉崎

ー 姉崎音頭でふりかえりー です。

「姉崎のあゆみー日本史の中の姉崎ー」
最終回ー姉崎音頭でふりかえりー
姉崎を知る会 石黒修一

姉崎の歴史を日本史の中で見てきました。姉崎の出来事が日本史と密接しており、初回で「姉崎の歴史は日本史の縮図」と言った意味をお分かりいただけましたでしょうか。

最終回は「姉崎音頭」に乗せて姉崎の歴史を振りかえります。歌詞は時代順に並べましたので、長山洋子が唄うCDとは順番が異なります。また、各項目の○数字はつどいに掲載した回数です。詳細はその記事をご覧ください。

【平安時代②③】
松の嫌いな明神様は姉崎神社です。姉崎神社の宮司・海上家は姉崎古墳群の埋葬者・海上国造の末裔とされています。姉崎神社は平安時代の延喜式に記録さ

れている式内神社です。神社のご祭神が「待はいやじゃ」と言ったことから「松」をきらうようになり、大鳥居脇に縁結びの「夫婦杉」がありました。源頼朝が戦勝祈願をしたと伝わります。姉崎は古代から栄えていた土地なので

【戦国時代④】
桜花咲く椎津の山は椎津城跡です。戦国時代の椎津城はその立地条件の良さから多くの争奪戦が行われました。椎津カラダミは椎津城の戦いで敗れた城主を偲ぶ行事ともいわれています。豊臣秀吉に滅ぼされ歴史から消えましたが、「南総里見八犬伝」の冒頭に伏姫の母の居城として現れています。

【江戸時代⑤⑥】
元禄時代、婦人を誤って撃ち殺した「お竹騒動」に関わり島流しになった主人に忠義をつくした市兵衛、江戸時代末

期・お親孝行で鶴牧藩主から褒美をもらった五郎が唄われています。初期に家康の孫が治めた姉崎藩が立藩、化政時代には町人文化が栄え、幕末には佐久間象山が大砲の試射をしました。鶴牧藩は「史記評林」を発刊し、幕藩体制からの藩で唯一廃藩置県を迎えました。

【近代⑦】
姉崎には海の暮らしがありました。海には薪炭を運ぶ伍大力船が浮かび、漁撈・海苔養殖が盛んでしたが、京葉工業地帯建設に伴ない海が埋立てられ、山は削られ多くの団地が建設されるなど生活環境・くらしは一変しました。

盆踊りで「姉崎音頭」を聞き・踊るとき、姉崎の歴史に思いを馳せていただければ嬉しいです。

姉崎には先人がつないでくれた歴史・文化・くらしが沢山あります。身近にありすぎて気が付かないだけなのです。もう一度身の回りを直直してください。きつと何かが見つかると思います。まず知る事です。地元を知り、それを守る。そのなかから「ふるさと姉崎」を愛する心が生まれると思います。子供たちが「私のふるさと姉崎！」と言ってくれるようになることを望んでいます。

長い間お付き合いをいただきまして、ありがとうございます。

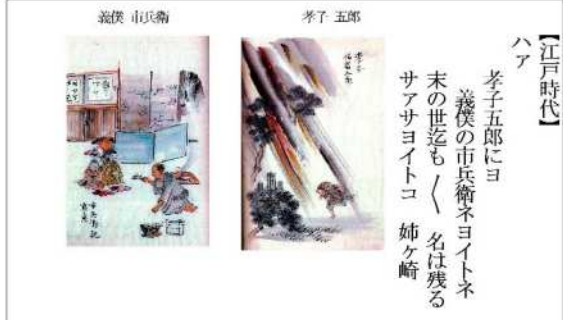
【姉崎を知る会・連絡先】
090-3544-3728 (石黒)



【平安時代】
ハア
松の嫌いなヨ
明神様のネ ヨイトネ
夫婦杉の木ー縁結び
サアサヨイトコ 姉ヶ崎



【戦国時代】
ハア
桜花咲ヨ
椎津の山はネ ヨイトネ
昔武田のー城の跡
サアサヨイトコ 姉ヶ崎



【江戸時代】
ハア
孝子五郎にヨ
義徳の市兵衛ネ ヨイトネ
末の世迄もー名は残る
サアサヨイトコ 姉ヶ崎



【近代】
ハア
願い掛けたやヨ
明神様にネ ヨイトネ
主の大漁とーわが想い
サアサヨイトコ 姉ヶ崎